

# 安全確認の徹底を

県内の平成26年1月～3月の期間、労働災害による死亡者数が12人と発表されました。これを受け、7月まで「死亡労働災害防止強化期間」とし、死亡労働災害防止の呼びかけ、安全確認の強化徹底をお願いします。

# 建 労 い わ て 月 刊 号

発行所  
岩手県建設労働組合連合会  
教宣部  
盛岡市本宮一丁目7番27号  
電話 019-631-3280  
FAX 019-635-4015  
発行者 藤井泰男

## 2014年春の組織拡大月間 各単組の拡大状況 (4月末時点)

組合名	組織人数	新加入	脱退	拡大数	拡大率	新加入紹介者数
八幡平	170	2	-3	-1	-5.8%	2
盛岡	2602	25	-17	8	3.0%	17
花巻	252	6	0	6	25.0%	3
北上	454	2	-1	1	2.1%	1
西和賀	78	1	0	1	12.5%	0
金ヶ崎	41	0	0	0	0.0%	0
水沢	242	2	-3	-1	-4.0%	2
前沢	43	0	0	0	0.0%	0
江刺	143	4	0	4	28.5%	3
平泉	47	1	0	1	20.0%	0
一関	92	1	-3	-2	-20.0%	0
釜石	272	1	-2	-1	-3.5%	1
大槌	104	0	0	0	0.0%	0
宮古	259	2	-3	-1	-3.7%	0
遠野	145	4	0	4	28.5%	1
けせん	23	0	0	0	0.0%	0
合計	4967	51	-32	19	8.50%	30

2014年春の組織拡大月間は、4月末日まで取り組みが行われ、県内の組織人数は4,967名となりました。

新加入者を紹介していただいた方が8組合30名でした。4月の純増拡大数は19名で、前年同月比と比べ22名増加しました。

取り組みを行った役員・組合員・青年部・主婦の会・書記局のみなさん本当にお疲れ様でした。

なお、新加入者を紹介した方に、ささやかではありますが、粗品を進呈します。これからも拡大への取り組みにご協力をお願い致します。



3. 5キロのコースを家族連れの参加者がウォーキング

北上建設組合 北上展勝地で体力づくり  
北上建設組合は、今年初参加の家族連れ5月18日の組合員が多く、同世代で同じくらの年齢のお子さんを持つ方たちは、自然と会話が弾んでいたようです。展勝地周辺を歩く「立花てくてくルート」には、様々なコースがありますが、今回は「展勝の小径コース」で3.5キロのコースを約2時間かけて歩きました。ガイドの阿部さんよりコースの説明を受け、ラジオ体操で体をほぐしていざ出発。このコースは、道幅も狭くウォーキングには少々辛い急勾配の為、長蛇の列となりました。道筋の日陰に咲く山野草を見つけては「ママシグサだよ」と話はずみ、楽しく歩いていました。

参加者の1番取年数は2歳の女の子で、お父さんが心配して「抱っこをしてあげようか」と声をかけても、イヤイヤをして兄弟達の後を追いかけて行きました。頑張って歩いている姿がとても印象的でした。途中休憩場所での、眼下に見える北上の町並みに改めて感激しました。

ウォーキングの後半は、さらに上の展望台を目指す「上級者コース」と、そのままならかに下山する「初心者コース」に分かれて行動しました。私は「上級者コース」を選択し、展望台を目指し登っていきます。みなさんだんだん声も静かになり、お疲れの様子でしたが、無事展望台に到着。展望台には、亀の形に似ている「亀の子岩」と呼ばれる岩があります。ここからは北上川と和賀川の合流が壮大に見えてとても絶景です。初心者コース、上級者コースのみならずはそれぞれ下山し、展勝地駐車場へ集合した後解散となりました。1人でも多くの組合員さんにこの楽しい事業を知って、体験してもらい、来年にはもっとたくさんの方に参加していただきたいと思いました。

最後に参加者の翌日の筋肉痛が心配です。  
【北上 高橋 一朗記】



80名の参加者全員で記念写真

最近少子高齢化が深刻な問題となっている。26年後の2040年には、子供を産める女性の数が、現在の半分の人数になっている。国の政策が急がれるが、未だ子育てに関するものは整っていない。技術、技能を伴う職業で建設業、医師、看護師などで国民の生命を守る重要な人材でもある。政府は、建設労働者不足の問題について、外国人労働者を使用して解消する「建設分野における外国人材の活用に係る緊急措置」を決定した。決定したのはいいが、職人不足の解決につながらず、今後起こりうる災害に対する対応をどうするのか。安倍首相は、国民の命を守る「集団的自衛権の行使容認」を行おうとしている。

## きずな

対国との問題よりも、なぜワジワと迫ってくる少子高齢化対策をしないのだろうか。このままでは、「国民の命」が危ない時代が来ている事を、本気で考えたらどうだろうか。  
【真連会長 齋藤 徳重】